**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第５６回　（２０１９年１０月８日）**

**・第５６回の勉強範囲：「第三章　ヴィディヤー・シャーゴル訪問」３３頁～３４頁**

参加者：「前回、ヴィディヤー・シャーゴルの人生の目的は、自分が完璧になって人を助けたりする。善い行いをして、人も同じように善い行いをするとこの世界が天国になる、という話がありました」

**もっとも高い人生の目的**

ほとんどの人の中心は自分と自分の家族です。そして人生の目的の中心も自分と自分の家族です。自分と家族の面倒を見るためにお金を稼ぎ、名声欲もあります。誰も傷づけないし非道徳でもないが、他の人を助けることも世話をすることもない。そういう人がいっぱいいます。そのような人の人生の目的は特別なものではありません。その人にとっては今生がすべてです。来生も前世も考えない。神様のことも考えない。　しかし、神様は信じていて、祭典や儀式には参加するけれど、そこまでです。まるでサンデーチャーチ（毎週一回だけ教会に行くことで満足する）のようです。今はそれすらしない人がたくさんいますが。

そういう人は、「真理とは何か」、「人生の目的は何か」、「自分の本性は何か」などに興味がありません。聖典の勉強もしておらず、「欲望、執着はよくないので、自分の欲望、執着を取り除きたい」という考えは全然ありません。聖典の中でそのような人たちを「種が出て収穫されることを繰り返す植物のようだ」と言っています。

しかし、人としての人生とは、とても高くとても特別なものなので、それではもったいない。ヒンドゥ教の聖典では、「みんな植物から動物へ何度も何度も生まれ変わり、最終的に人間の形で生まれている」と言っています。シュリー・ラーマクリシュナはいつも人としての人生は特別であることを覚えていたので「人生はとてもとても特別なので、できるだけよく使ってください。時間を有効に使ってください」と言いました。

ふつうの人は、自分や家族のことが人生の目的ですが、それと比べてヴィディヤー・シャーゴルの目的が「できるだけ道徳的に完璧になって、非利己的になって、純粋になって他の人を助けること」なのはとてもいいです。いいですが、さらに高い人生の目的があります。それは真理の探究です。

**シュリー・ラーマクリシュナの人生の中心は真理**

シュリー・ラーマクリシュナの人生の中心は真理、神様、マザー・カーリー、ブラフマン、アートマンです。シュリー・ラーマクリシュナはどんな世俗的な話も、すぐに神様のことに向けました。なぜなら、シュリー・ラーマクリシュナのコンパス（方位磁石）の針は常に神様を指しているからです。それに比べて、一般的な人の話は、神様で始まっても神様と関係のないことで終わります。なぜなら、世俗的な考えがいっぱいありますから。

**神様は無限**

**神についてすべてを知ることはできない**

神様に興味があり、神様のことを勉強していると、「自分は神様のことを全部知っている」というエゴが出る可能性があります。（前回は学者の例を挙げられた）。その種類の人は、自分の知っている神様、自分の神様のイメージだけが正しいと思い、それ以外の別の神様の姿は信じられません。なぜならエゴが大きいから。前回、アリが砂糖の山へ行って、一粒食べてお腹いっぱいになったので、もう一粒を家に持ち帰りながら、「次は砂糖の山全部を持って帰ろう」という話で、我々の神様についての知識はアリのようだという説明をしましたね。

しかし、神様は無限なので、神様の知識も無限です。我々は、神様の一つの姿を理解してそれを実践しています。それはダメではありません。問題なのは「自分たちだけが正しい」と思って、他の人の神様を理解しないことです。『福音』の中でも、「神様についての自分の理解、知識、イメージだけが正しいとは思わないでください」と何回も言っています。

スワーミージーのとても美しい英語があります。

*"All religions are a part of The Religion".*

*（すべての宗教は、包括的な宗教の一つの部分です）*

知性は有限なので、無限である神様のことを全部理解することはできません。人それぞれで知性の高さは違いますが、シュカ・デーヴァのような霊的な知性のレベルが高い聖者でも、神様のことを全部理解することはできません。

**すべての宗教は、包括的な宗教の一つの部分である**

ヒンドゥ教では、神様の化身は何回も何回も生まれ変わります。

なぜなら、ある神様の化身は、神様の一面を示しているに過ぎず、また違う神様の化身があらわれることで、神様の別の一面を示すことができるからです。

例えば、シュリー・クリシュナで神様の一面を示し、ラームチャンドラで別の一面を、シュリー・ラーマクリシュナでまた別の一面を示されているのです。そして、シュリー・ラーマクリシュナで終わりではありません。シュリー・ラーマクリシュナが神様の全てをあらわしているのでもありません。とても論理的ですね。

シュリー・ラーマクリシュナは『福音』の中で言っています。

「私は真理のことを全部は教えてない。なぜなら全部教えると、あなたはもう私のところに来ないから」、「私はあなたたちにすべてを教えようとしています。だから何度も生まれなくてはいけません」

前回も言いましたが、ヒンドゥ教徒、キリスト教徒、仏教徒、イスラム教徒たちはみんな、自分たちの聖典だけでなく、他の宗教の聖典の勉強も必要です。なぜなら、自分たちの聖典に書かれていない神様の一面が他の宗教の聖典にある可能性があるからです。もちろん基礎は自分の宗教ですが、他の宗教を学ぶことで、新しい神様の知識を勉強できます。

しかし、ふつうの信者は、他の宗教の勉強をすることを恐れます。

なぜなら、他の宗教を勉強することで、自分の信じる宗教への信仰が薄まる可能性があるからです。宗教ごとに、細かい教えが違いますから。

例えば、ヒンドゥ教には、カルマ、カルマの法則の教えがありますが、キリスト教の考えでは前世や来生というアイデアがなく今生があるだけなので、矛盾を感じるかもしれません。しかしそのようなことは気にしないで、キリスト教徒がバガヴァッド・ギーターの実践の方法を読んで実践することはできます。

また、例えばヒンドゥ教では神様を信じていますが、お釈迦様は、神について言及なさいませんでした。しかし、仏教の教えの中に、実践的なヒントがたくさんあるのでヒンドゥ教徒はそこから学ぶことができます。

**悟った後、本当の霊的な人生が始まる**

科学では、ある物質が発見されるとそこで終わり。それ以上の調査は必要ないです。もちろんその物質の使い方、あらわれ方についてはさらに研究が必要とされますが。そのことについては、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダも言及しています。

しかし、神様の知識についてはそうではありません。

ブラフマーナンダジが「ニルヴィカルパ・サマーディの後に、本当の霊的な人生が始まります」と言っています。ブラフマーナンダジの考えでは、たくさんの新しい霊的な経験が始まるのです。なぜなら、神様も神様の姿も無限ですから。

そのことを考えてシュリー・ラーマクリシュナがさまざまな宗教の実践をしたのも、さまざまな霊的な経験をしたかったからです。ヒンドゥ教のさまざまな宗派で、キリスト教の考えで、イスラム教の考えで、どのように神様を悟るか、悟った後どうなるか、について興味があった。

世俗的な図書館の本は有限だが、神様の知識の図書館の本は無限です。

📖読み

『福音』３３頁下段L３～L５

*サマーディの中で、人はブラフマンのを得る—ブラフマンを悟る。その状態の中では推理はまったくやみ、人は黙ってしまう。彼はブラフマンの性質を説明する力を持たないのです。*

（解説）

これは「ブラフマンの知識を得てそれを理解しても、ブラフマンの説明はできない」ということを言っています。それについて面白い話をひとつ思い出しました。

シュリー・ラーマクリシュナの直弟子のスワーミー・シヴァーナンダは、マハープルシャ・マハーラージと呼ばれていましたね。その方はオムカラーナンダジというお坊さんがとても好きでした。ある時、オムカラーナンダジがマハープルシャ・マハーラージに尋ねました。「マハーラージ、『福音』の中には、シュリー・ラーマクリシュナの教えがいっぱい入っていて、どこで話したか。誰と誰がその場にいたか、などが書かれています。しかし、タクールがどのように話しておられたかが分からない。どうぞ教えてください」

オムカラーナンダジは、タクールが話をするときの、目や顔の表情、手の動き、声の抑揚などが知りたかったのです。『福音』ではそれが分からないですが、きっと大事なことを言うときは、声や顔の表情が変化したはずです。オムカラーナンダジはその様子が知りたかった。

そしてマハープルシャ・マハーラージの答えは、

「どうやって表現すれがいいやら！　とても圧倒されたのだよ。お顔がパッと明るくなった。君に教えてあげたいけれど、とても表現できない」

でした。無限のことを見ても言葉にできませんから。

無限には①海　②空　③ヒマラヤのような山、の３つのシンボルがあります。

これらは相対的絶対なものです（relatively absolute）。本当は絶対でも無限でもありませんが、相対界での無限のシンボルです。そして海や空や山を表現できないように、シュリー・ラーマクリシュナのことも表現できません。

**シュリー・ラーマクリシュナは真理についていかに印象深く教えたか**

シュリー・ラーマクリシュナは、教えを深く深く印象付けるためにさまざまな方法を取りました。二つの例をあげます。

①あるときシュリー・ラーマクリシュナのもとに物乞いが来ました。シュリー・ラーマクリシュナはアカンダーナンダジ（出家前の名はガンガーダル）に、部屋のある場所から小銭を取り出して、物乞いに渡すように言いました。ガンガーダルは言われた通りに小銭を物乞いに渡しました。そのあと、シュリー・ラーマクリシュナは、ガンガーダルに手をガンジス川の水で洗うように言いました。汚いものを触った時のジェスチャーを何度もして。なぜなら、ガンガーダルは後にお坊さんになる人です。だからお金を放棄しないといけない。だからお金は汚いものだということの深い印象をガンガーダルに与えるために、そのようなことをしました。最初はガンジス川の水。そのあと何度もジェスチャーを繰り返して示しました。

②たぶんヴィッギャーナーナンダジ（出家前の名はハリプラサンナ）のことだったと思います。ある時ハリプラサンナは、シュリー・ラーマクリシュナと夜に同じ部屋で寝ていました。その時、シュリー・ラーマクリシュナが夜中に突然起きて、「おかあさん、これはいらない、いらない」と言ってつばをペッペッと吐きながら部屋の中を歩きまわりました。部屋の床が濡れるまで何度も何度も。シュリー・ラーマクリシュナは、「いりません、いりません、私に与えないでください、与えないでください」と言っていました。

ハリプラサンナは想像しました。「もしかしたら母なる神様がタクールに名声欲をあげたかったのかもしれない。そしてタクールは『いらない、いらない』とおっしゃったのだ」

ハリプラサンナもお坊さんになる人です。だから、名声欲も取るに足りないくだらないものだということの印象を深く与えるために、シュリー・ラーマクリシュナはそのような行動をとったのです。

シュリー・ラーマクリシュナの目的は教えるだけでなく、深い印象も作りたい。

神様だけが正しくて、他は正しくないことの深い印象を作りたい。

シュリー・ラーマクリシュナは演じることも上手でしたね。そしてシュリー・ラーマクリシュナの教えの全ては、本当は先生の先生からの教えです。

大事なものはただ一つ、神様の悟りだけです。

神様への純粋な愛、神様の知識、純粋さをもって、シュリー・ラーマクリシュナはさまざまなことを表現されました。しかしそれがどのような様子であったかを福音で知ることはできないですね。

**悟った後はどうなるか**

悟りの前は、いっぱい識別（ヴィチャーラ）が必要です。何が実在でなにが非実在かを識別する。我々は悟りの前は真理についてのさまざまな疑いや混乱があります。しかし、悟りの後は、識別はもういらない。なぜならすべての疑い、すべての混乱はなくなっていますから。

例えば、ある人について本を読み、写真を見て、ビデオも見ました。しかし、その人に本当に会った後は、その人に関する疑いはなくなります。

もう一つ牛乳の例を言います。もし、牛乳についてたくさん聞き、写真やビデオを見て、牛乳についての勉強もしたが牛乳を見たことがないなら、牛乳についてのイメージが間違っている可能性がありますね。また、牛乳を実際に見るだけでは、味や飲んだ後どうなるか、などが分かりません。実際に飲んでみないと。実際に何度も飲んでやっと牛乳についての疑いがなくなりますね。

悟りも大体同じです。神様についていっぱい話を聞き、勉強もして、神様について自分で想像もしています。ですけれども、悟った後は全部、これまでにいっぱい想像したもの、勉強したものが間違えていた、違っていた、という可能性があります。

それについてシュリー・ラーマクリシュナの言葉があります。

　　神様について聞いてイメージを作ります。

　　神様について勉強して別のイメージが出ます。

　　神様を悟った後、別のイメージになります。

この３つの中で正しいイメージは、悟った後のイメージです。悟った後の神様のイメージと、それまでの神様のイメージは全然違います。牛乳を飲む前と飲んだ後のイメージとが全然違うように。私は日本に来る前に寿司をイメージしていましたが、実際に見ると、「おお、これが寿司ですか」と思いました。

そして一番大事なことは、

・聞いてイメージを作る。　・勉強してイメージを作る。　・もう一つは識別の実践をしてイメージを作る。　そして、悟った後は、それまでのイメージとは全然違います。そのことを理解してください。しかし、悟るまでの、聞く、勉強、識別は大事です。そうしないと進まず、進まないと悟りはできません。悟りのためにそれらは必要なのです。無駄ではありません。そして悟った後は、識別はもう必要ない。なぜなら本当のものを経験できましたから。

そして悟った後は

*ヴィッディヤテー　フリダヤ　グランテー　チッデャンテ　サルヴァ　サンシャヤハ*

*クシャンテ　チャシャ　カルマニ、タスミン　ドリステ　パラヴァレ*

*Vidyate hridaya granthi,chidyante sarva samsayah*

*Kshiyante chasya karmani, tasmin driste paravare.*

*意味：悟った後は、心のコブが切り取られ、無知と疑いがなくなり本当の知識だけが出ます。*

歌詞の説明

・フリダヤ　グランテ：心の中にコブ（knot）があります。

心の中に無知のコブと知識のコブがあります。今の状態は、勉強しているときは「私は魂」「私はアートマン」と考え、食事などのときは「私は体」だと考える状態です。そのようにある時は知識が出ているが、ある時は無知が出ています。しかし、悟った後は、それらのコブは切り取られ、本当の知識だけが出ます。

・サルヴァ　サンシャヤ：すべての疑いはすべてなくなります。

例えば、本当は魂とは何か。魂の本性は何か。それがすべて理解できます。

・サルヴァ　カルマニ：すべてのカルマ、カルマの結果が全部なくなります。

・タスミン　ドリステ　パラヴァレ：一番高い絶対のものを見て、絶対のものを悟って結果が出ます。パラヴァレの意味は、「絶対のもの、絶対、真理」です。

**解脱の結果**

・無知がなくなり、本当の知識だけが出る。（心のコブが切り取られる）

・すべての疑いはなくなる。

・すべてのカルマとカルマファラ（カルマの結果）がなくなる。

そして、悟った人は何も話しません。話す必要がありません。なぜなら、真理を理解しましたから。満たされましたから。(become full)

たとえばポットに水を注ぎ入れるとき、注ぎ始めはゴボゴボと音がしますが、満タンになると音がしなくなります。ポットが満たされたときのように、真理を理解して満たされると、静かになるのです。

**解脱の方法**

**①ヴィチャーラ（識別）**

解脱をするためには、その前に識別が必要です。

ヴェーダーンタの中に、「識別とは何か」「識別の内容」など、識別のことがいっぱいあります。識別の例を挙げてみてください。

参加者「実在と非実在の識別」、「体意識と魂意識の識別」

そうですね。「私は体ではない」「心ではない」「知性ではない」「感覚ではない」「生命エネルギーではない」と、一つ一つ識別します。そして「私は魂です」。

また、「体は一時的で魂は永遠」「体は有限で魂は無限」、それが識別です。

求道者はみんな個人的にそのように識別します。それがミクロレベルの識別です。

マクロレベルで考えると、みんな一つ、ブラフマンだけ。さまざまなモノが我々には見えていますがそれらは全部実在ではありません。我々の名前と形、性質も一時的です。

無知の影響で別々なもののように見えていますが、本当はブラフマンただ一つ以外に別なものはないのです。しかしそのことを理解するのは難しい。

我々は感覚器官を通して感覚で理解していますが、我々が感覚器官で理解したものは、見えていても実在しない。実際に見えていることを実在しないと理解するのは難しいですよ。

例えば、砂漠の蜃気楼は見えていても実在しません。太陽は実際に目にする太陽より本物はものすごく大きかったり、星は実際に目にする星より本物はものすごく速く動いていたりします。私たちは目にしているものは本当のものとは異なるものがあるという理解をしており、太陽や星については、目にしているもの（感覚器官でとらえるもの）と本物は違うと理解しています。しかし実際に感覚器官を通して知覚しているものを実在しないと理解するのは難しいのはどうしてでしょう？

**②母なる神様に恩寵をお願いする**

例えば、マジシャンが人をのこぎりで切って真二つにするマジックがありますね。他にも、２時開演のマジックが２時半になっても始まらない。みんなが文句を言い始めたときに、時計を見ると、なぜかまだ２時。信じられませんが、そのようなマジックもあります。それがマジシャンのマジックだと分かっていても、信じられないときがありますね。

そしてマーヤーがマジシャンで我々はマジックの道具です。すべてはマジックです。マスター・マジシャンが母なる神様です。

我々は自分がマジックの道具だということを理解できず、すぐに忘れ、体と自分を同一視します。しかしそれでは恐れ、苦しみはなくなりません。

本当はすべてマジックで、マスター・マジシャンはマザー、我々はマジックの道具だということを理解するためには、心が清らかにならなくてはなりません。そして心を清らかにするために一番大事なことは、欲望と執着をなくすことです。

心の完全な清らかさはマザーの恩寵によってのみ叶えることができます。ニルヴィカルパ・サマーディもマザーの恩寵がなければ、自分の努力だけではできません。

シュリー・ラーマクリシュナは賢明です。「マザー、私はあなたの子供です。恩寵をお願いします、恩寵をお願いします。」と何回も心からマザーに祈り、泣きました。そしてマザーのcompassion(憐み)が出たのです。

我々も「マザー、マザー、マザー。プリーズ、プリーズ、プリーズ。お願い、お願い、お願い。Please remove this maya. 」と深く、深く、深く、一回ではなく、毎日、毎日、毎日、心から祈りますと、その方法でも心は清らかになります。

しかし、マザーのことを忘れると、マジックはなくならない。だからいつもマザーに、

「私はマジックの道具として遊びたくありません。マザーが遊びたいのなら、どうぞそうしてください。でもどうかわたしを開放してください」と祈ってください。

そうしないと、ある時は喜びある時は苦しむ、またある時は楽しみある時は悲しむ。喜びと苦しみはペアーのようです。ある瞬間は楽しんでいるのに次の瞬間は苦しむ、またある瞬間は穏やかでも次の瞬間には心配をしている。そのような状態がずっと続きます。

だから、「マザー、お願いです。もうお遊びはいりません」と何度もお願いしないといけないのです。

スワーミージーの有名な詩に「My play is done. (遊びは終わりだ)」というのがあります。

我々はみんな（この世の）遊びが好きですから。

シュリー・ラーマクリシュナも『福音』の中で、同じ内容のことを何度も言っています。

例えば、「庭と庭の持ち主」の話では、この世界は神様の庭で、我々は神様の庭の中で遊んでいます。庭には甘い果物と苦い果物があります。我々はたとえ苦い果物を食べてしまっても、次は多分甘い果物を食べられるという希望を持っています。そしてそのとき我々は（食べることに夢中になって）庭の持ち主、つまり神様のことは忘れているのです。

シュリー・ラーマクリシュナの特徴は、「マザー、マザー、マザー」と最初からマザーにお願いしたことです。シュリー・ラーマクリシュナはヴェーダーンタを勉強したこともない。シュリー・ラーマクリシュナの方法は一番頭がいい方法ではないですか。ふつうは、いろいろ勉強をし、識別をして悟りを目指します。しかし、シュリー・ラーマクリシュナは最初からマジシャンに「マジックは楽しくないのでもう見たくありません」、「マジックの世界を取り除いてください」と頼みました。（笑い）

我々も、シュリー・ラーマクリシュナと同じように、祈りが中から出ないといけません。中から出なければ結果を得られないからです。しかし我々は、口ではマジシャンに「マジックはもう見たくない」と言っていても、実はマジックが好きなので、中から本当に「見たくない」と思って「マジックを取り除いてください」と深く祈ることは、とても難しいです。

参加者「まずは心をきれいにしないと、いきなりマジックはいらないといっても、そうはいかないのですね」

心をきれいにして、祈りもしてください。それらを一緒におこなってください。シュリー・ラーマクリシュナも最初からマー、マー、マーと子供のように祈っていました。

私たちは、聖典で「この世界はマジックだ、幻だ」と聞いても学んでも全くそのイメージがわきません。シュリー・ラーマクリシュナは、真理について教えるだけでなく、真理についての深い印象も与えたかったので、（本文の）「*サマーディの中で、人はブラフマンのを得る—ブラフマンを悟る。その状態の中では推理はまったくやみ、人は黙ってしまう。彼はブラフマンの性質を説明する力を持たないのです。」*とおっしゃったのです。そしてそれは心から深く祈らなければ得られません。

我々は聖典を勉強し聞くだけではなく、シュリー・ラーマクリシュナの言葉によって真理についてより深くイメージすることができます。

**悟ってブラフマンと一つになった後、戻ってくる人（魂）たち**

しかし、悟った後は勉強も識別も、なにもいらない。その人は静かになります。

では、悟った人は、いつ再び話を始めますか？

それは人に教えるときです。コップの水がいっぱいになって静かになっても、次に空のコップに水を注ぐときに音がなるように、悟ったが人が満たされて静かになった後に、他の人に教えるときに話を始めます。

そのために悟った後にもとに戻る人がいるのです。

それ以外の悟った人はブラフマンと一つになって、そこから戻りません。悟った後に戻ることはとても難しいことです。なぜなら、川の水が海に入ると自分のアイデンティティ（個人的存在）がなくなるように、自分の魂と無限のブラフマンが一つになった後に、もとに戻るのは難しいのです。川の水が海に入ってから元に戻すのは無理なように、自分の魂とブラフマンが一つになった後に、元に戻るのは無理ではないですか？

しかし、シャンカラーチャーリヤ、シュカデーヴァ、ジャナカ王、ナーラダなどは、サマーディの後に戻ってきて人々に教えました。このように戻ってきた方々の例がいっぱいあるということの意味は「サマーディの後に戻れる、自分の体、自我に再び合一できる」ということです。

では、どのようにして戻ることができるのでしょうか？　『パタンジャリ・ヨーガの実践　～そのヒントと例～』（第８章　サマーディの結果　P２１２）の中にそのことがあります。神様の恩寵でできます。神様と自分の魂が一つになっても、神様の恩寵でまた再び自分の体と合一できるのです。

神様の目的は、悟った人が他の人に教えるためです。スワーミージーのサマーディの後の話がありましたね。

悟った人が悟った後に自分の体や自我と再び合一しても、悟る前の体や自我と魂が合一していた自分とは違います。悟る前は体を「私の体」だと考えていましたが、悟った後には、自分の体も世界もすべてがまるで影のように見えるのです。（『パタンジャリ・ヨーガの実践　～そのヒントと例～』第７章　サンヤマ　P２００）

例えば、我々が歩くとき影が出てもその影は実在ではない。そのように悟った人は戻った後、自分の体が本当は実在ではない、ということに気づきます。そしてもう執着は出ません。なぜなら欲望や執着は、自分を体だと思っているときだけに出るものだからです。

悟った人も、人を愛したり、教えたりするなど、何でもできます。しかし、執着はありません。それが大きな違いです。（『パタンジャリ・ヨーガの実践　～そのヒントと例～』第８章）

📖読み

『福音』３３頁下段L６～３４頁上段L７

　*あるとき塩人形が海の深さをはかりに行った（みな笑う）。水深がどのくらいであるか、みなに話したいと思ったのです。しかし、それはできませんでした。水に入るやいなやそれは溶けてしまったのだから。もう海の深さを報告する者などは、いないではありませんか」*

*ある信者「人がサマーディの中でブラフマンの知識を得たといたします。彼はもう口をききませんか」*

*師「シャンカラーチャーリヤは、他者に教えるために『知識のエゴ』を保持していました。ブラフマンのヴィジョンのあとでは、人は沈黙してしまうのです。まだそれを悟らないあいだは、について推理をする。ストーブの上にのせた鍋でバターを熱すれば、それに含まれた水分が蒸発しきるまではジュージューという音がする。しかし水分があとかたもなくなると、純化されたバターは音をたてない。もしそのバターの中に粉をこねた塊を入れれば、それはふたたびジュージューという。しかしその塊が十分に揚がれば、音は完全にやむ。ちょうどそのように、サマーディに落ちついた人は、他者を教えるために意識の相対界におりてきて、そこで神について語るのです。*

*ハチは、花にとまるまでブンブンいいます。を吸いはじめれば黙ってしまう。しかしときどき、に酔ってまたブンブンといいます。*

*からの水さしは、水中に入れられるとゴボゴボと音をたてる。いっぱいになると黙ってしまう（みな笑う）。しかしもし水がそれから別の水さしに注がれると、そのときにはまた音が聞こえるでしょう（笑い）。*

（解説）

**２種類の私意識（エゴ）**

塩は海と同じ成分なので、海に入れると海と一つになります。

日本語ではハチはブンブンと飛ぶのですね。ベンガル語ではバクバクです。

水さしの話は先ほど説明したように、悟った人が人に教えるときまた話すことのたとえです。しかし、悟った人には「私は教えています」という私意識はありません。なぜなら私意識はなくなっているのですから。

私意識には２種類あります。「熟した私」と「熟していない私」、別の言い方をすると、「知識を持っている私」と「無知を持っている私」です。悟った人には知識がありますから「知識を持っている私」で、悟っていない人は「無知を持っている私」です。それが違います。

📖読み

『福音』３４頁上段L８～L１６

*古代のリシたちはブラフマンの知識を得ました。人は世俗性のかすかなでも持っているあいだは、これを得ることはできません。リシたちはどんなきびしい修業をしたことでしょう！　朝早くにアーシュラムを出て、終日をひと気のないところでブラフマンの瞑想にすごしました。夜になるとアーシュラムに帰ってきて、少しばかりの果実か根菜類を食べるのでした。彼らは心を、視覚、聴覚、触覚の対象およびその他の世俗的な性質のものからは遠ざけていた。このようにしてはじめて、**彼らはブラフマンを彼ら自身の内なる意識として悟ったのです。*

（解説）

**ギャーニーは１００％の純粋な意識を目指す**

内なる意識（inner consciousness）は、純粋な意識です。シュリー・ラーマクリシュナは純粋な意識の結果でサマーディになりました。我々にも意識はありますが、不純な意識です。

我々の意識は

・体意識

・生命エネルギー意識

・「聞く」、「味わう」などの感覚意識

・「悲しい」や「嬉しい」などの心意識

・「私はこうすると決めました」という知性意識

・「私は覚えている、忘れた」という記憶意識

・「私は体」「私は生命エネルギー」「私は見る」という私意識

など全部が混ざっています。それらが合わさった意識です。純粋な意識ではありません。ある時は体と同一視し、またある時は心と同一視します。感覚と同一視するときもあります。我々の意識はいつも合わさった意識ですが、もし意識を体意識などの他の意識と全く合わせないと純粋な意識ですから、すぐにサマーディになります。

参加者「難しいですね」

純粋な意識のときは、深く眠った状態のような無意識でタマス的な状態ではありません。サマーディは目覚めた状態です。しかし、我々は、瞑想すると意識がすぐにイベントや人の顔、仕事などを思い出しますね。そうではありませんか？

純粋な意識のときは、なにも出ません。神様の像も神様の絵も出ない。

例えば、シュリー・ラーマクリシュナは初めてニルヴィカルパ・サマーディに入る前は、マザー・カーリーの像が出てきて、ニルヴィカルパ・サマーディができませんでした。そのことをトター・プリーはとても怒りました。そこで、シュリー・ラーマクリシュナは瞑想をしてマザー・カーリーの姿が浮かぶと、知識という剣でそれを心の中で斬りました。

☞（『ラーマクリシュナの生涯』上巻３０６頁）

マザー・カーリーも、シュリー・ラーマクリシュナも、本性はサッチダーナンダですが、そのあらわれた姿はマーヤーのひとつです、もちろんヴィディヤー・マーヤーではありますが。それらはマーヤーの形であり、信者のためにヴィディヤー・マーヤーとしてあらわれました。

シュリー・ラーマクリシュナはマザー・カーリーの像を瞑想していましたが、マザー・カーリーの像が意識からなくなって純粋にならないと、ニルヴィカルパ・サマーディは得られず、サッチダーナンダ（純粋な意識）であるマザー・カーリーとひとつになれない理由は、純粋なものは、純粋なものとしか一つになれないからです。もし純粋な水に、汚い水が混じったら、もはや純粋な水とは言わないでしょう。

参加者「純粋な意識というのは、気づきそのものなのですか？」

純粋な意識はイメージできません、無理です。

参加者「神をイメージするのも違うんでしょ」

違います。

参加者「イメージしたいけれどできません」

我々にはその経験がないからイメージできない。我々の意識はいつもいろいろ合わさった意識ですから今はできないです。だから、「これではない、これではない」と何度も識別をします。そして欲望がなくなると、１００％純粋な意識ではなくても、かなり純粋になります。そのあとにサマーディに入ると、１００％純粋な意識になります。そのことを信じて識別を続けてください。今の状態ではイメージをするのがちょっと難しいですけれども、できます。識別をしながら、瞑想をしながら、まずは頭で理解する。今の人格のいろいろなレベルの意識を合わせない。その状態を想像してください。

参加者「バクタが識別をする場合は、マーに近づきたいという目的でもいいんですか？」

今は、ギャーナのことを言っています。ブラフマギャーナ（ブラフマンの知識）、ニルヴィカルパ・サマーディのことを言っています。

もちろんバクタのためには、オーケーです。自分の意識と神様のお意識を合わせることもオーケーです。しかし、ギャーナ・ヨーガを実践するときは、純粋な意識を目指します。

**バクタは１００％神様意識を目指す**

バクタのためにも識別は必要です。

実在と非実在を識別しないと、バクタになっても執着、欲望はなくならない。だから、ギャーナ・ヨーガの識別はバクタのためにも大事なのです。神の恩寵でブラフマギャーナ、つまりブラフマンの知識を得ることもできます。

例えば、リシたち、聖者たちは皆ギャーナの道です。バクティの道ではない。やり方が違います。リシ、聖者たちは、家族から出て感覚の対象から離れて実践します。リシたちはブラフマギャーナができていました。その人たちは純粋な意識のイメージができます。しかし、バクタにはできない。なぜなら実践のやり方が違いますから。しかし、バクタもギャーナの勉強をした方がいいです。

バクタの私意識は「私は神様の部分です、神様の子供です」という私意識で、「私は体です」という私意識ではありません。体のことは考えていないです。なぜなら体は絶対になくなるものですから。何時でもどこでも体への執着はなくならないといけないです。なぜなら体意識がある間は、バクタ、ギャーニーのどちらにもなりません。どちらも体への執着はなくならないといけないのです。だから、バクタのためにも体意識を取り除かないといけない。なぜなら、体意識があると、絶対に執着が出る、欲望が出る。バクタにも同じチャレンジが必要です。リシたちは、純粋意識のことだけを考えていろいろやっていますが、バクタはゆっくりゆっくりと進みますから。

・この体は神様の体で自分の体ではない

・この体は神様のために使います

・この体は神様からもらった体です。その体も私の体ではなく神様の体です。そして神様のお世話のために、その体を使います。

というふうに考えます。

そうしないと、「私の体」だと考えると、世俗的になり、バクティが進まない。しかしそれは簡単なことではないですね。

（マハーラージがある参加者に）：あなたの息子はどなたの息子ですか？

参加者「マーの息子です」(笑い)

今はそう言っていますが、心では自分の息子だと考えています。しかしバクタのチャレンジは、家族、息子、娘、旦那さん、仕事、この宇宙、すべてが神様だと感じることです。神様の意識です。すべてが神様の意識。すべてが神に属している。そう考えることも簡単ではないでしょ。　ギャーニーの純粋意識とバクタの神様意識はそれが違います。

そして「私はギャーニーではないのでバクタです」というような簡単なものではありません。みなさんはすぐに神様意識を忘れて「私の体、私の仕事、私の家族」というような私意識、自分の意識が出ますから。バクタも簡単ではない。ちょっと神様に祈って礼拝をして、ジャパをしても本当のバクタではありません。

参加者「全部神様意識というのは想像もできません」

想像できないかもしれませんが、ギャーニーの純粋意識よりは簡単です。純粋意識はイメージすら難しいですから。

考えてください、「すべては神様」だと。その実践はあまり難しくないでしょ。実践ができる。我々の体意識はまだ強いので、神様と合わせる、神様とつながっている状態の実践をする。朝から晩まで全部のやり方、考え方、仕事が神様につながっている状態、それは実践が難しくてもイメージはできます。

オーケー、今日はここまで。